多久市歴史文化基本構想
概　要　版

構想策定の目的

● 目的

国指定史跡および重要文化財「多久聖廟」をはじめとして、多久市内には指定文化財のほか、たくさんの未指定の文化財があります。これらは、わたしたちの祖先の営み、その土地ならではの特色をいまに伝える歴史的遺産です。

そして文化財には、それを中心とした祭りや行事など人々の活動や、文化財がおかれた土地の自然といった周辺環境があり、それらを一体にとらえ「歴史文化」と呼びます。

「多久らしさ」とも言える「歴史文化」の保護・継承と、多久のまちづくりに活かすことを目的に、多くの方々のご意見をうかがい多久市の文化財保護のマスタープランとして「歴史文化基本構想」を策定いたしました。

この構想は、地域に存在する文化財を、幅広くとらえ、文化財の周辺環境までふくめ総合的に保存・活用するための基本的な考えとします。

● 期待する効果

▶【文化財の保護・継承】

◎歴史文化の価値を見出し、郷土への理解、コミュニティ再生のきっかけになる。
◎文化の薫り高い空間を形成できる。
◎子どもたちの郷土学習に役立つ。

▶【観光振興】

◎多久の歴史文化をもとに観光プラン・地域を整備し、交流人口の増加に役立つ。
◎観光の活性は、経済をふくむ地域の活性化にもつながる。

▶【まちづくり】

◎構想を広くしめすことで、歴史文化の保護を優先した開発をみちびくことができる。
◎ほかの行政分野との連携を進め、総合的なまちづくりが可能になる。
◎「歴史まちづくり」や「日本遺産」に活用。

構想策定の背景

● 多久市の歴史文化の保護と、わがまちの将来に向けて

多久市内の各地域には、それぞれに特色ある歴史に育まれた多種多様な文化財が残されています。地域の文化財は、地域の歴史や文化の理解に欠くことができない財産であり、それは広く国民が共有するものです。

平成 30 年 3 月現在、市内 46 件が国・県・市の文化財に指定され、そのほか 2 件が国の登録文化財であり、それらは各町にまたがり分布します。

多久聖廟（国重要文化財・史跡）

多久市では、これまで当市の歴史と文化の特色を示（しめ）した重要性の高い文化財について、指定・登録を行ないその保護につとめてきました。一方、市内には有形・無形、また指定の有無を問わず、たくさんの「歴史文化」があり、その数は 2,544 件（平成 20 年刊行『多久市史第 6 巻 集落史編』集計）におよびます。指定・登録で保護されている文化財は、全体の約 2% にすぎません。また、今回行なった基礎調査では 2,544 件のうち、現存が確認できたのは 2,175 件で、その差、369 件については、ここ 20 年余りの間に途絶えたり、失われていたりまた所在不明など、過去に存在した状態にないことが分かりました。近年はそうした未指定の文化財や伝統的な価値などが見直され、「歴史文化を活かした地域づくり」が全国的に高まりつつあり、いま新たな取り組みをはじめる時期と考えられます。

位置付け

「歴史文化基本構想」とは、指定・未指定にかかわらず地域に存在する文化財とその周辺環境を一体にとらえた「歴史文化」を、幅広く的確に把握し、他の行政計画とも連携しながら、総合的に保存・活用するための文化財保護行政を進めるうえで基本的な構想（考え）とするものです。

市の総合計画が目指す「将来像」を実現するための、文化財保護に関するマスタープランです。

上位計画
多久市総合計画（第４次）　後期基本計画
将来像　ー緑園に輝くーみんなで創る 文教・安心・交流のまち 多久

↓

多久市歴史文化基本構想 ↔ 関連計画
- 多久市生涯学習のまちづくり推進計画
- 多久市都市計画マスタープラン
- 多久市観光振興計画
- 多久市環境基本計画
- 多久市農業振興地域整備計画
- 多久市過疎地域自立促進計画

↓

各文化財の個別計画
保存、整備、管理計画等

青銅造孔子像（市重要文化財）

多久市の歴史環境（概要）

●原始

鬼の鼻山一帯に産出する「安山岩（サヌカイト）」を石材として、主に旧石器～縄文時代（約 12,000 年以上前から 2,300 年前頃）に「石器」が加工生産され、西日本最大規模と言われる遺跡群が残されました。

多久産安山岩の石器

●古代

『肥前風土記』などの記録に「高来（多久）郷」の記載があり、高来郷は大宰府を起点とする肥前路を「高来の駅」から南北に分ける分岐点として栄えたと推測されます。

後に整備された「唐津往還」、「伊万里往還」も多久のなかで分岐しました。

多久太郎宗直（延寿寺蔵）

●中世

鎌倉時代、津久井宗直（多久太郎宗直）の下向に始まる「前多久氏」の時代は、戦国期に龍造寺氏に追放されるまで 14 代つづきました。元亀元年（1570）、「梶峰城」に入城した龍造寺長信は、のちの「後多久氏」11 代の祖となりました。

●近世

後多久 4 代領主多久茂文は、儒学により多久領の人々に敬の心が育つよう希望し、郷校「東原庠舎」と儒学の祖孔子を祀る「多久聖廟」を創建しました。以来、多久は「丹邱（理想郷）」と称され、また多くの「先覚者（郷土出身の偉人）」を輩出しました。

多久聖廟釈菜（県重無形民俗）

●近現代

明治以降、多久は良質な唐津炭田の中枢産炭地として「炭鉱」の開発と採炭が盛んに行なわれました。昭和 20 年代に大手会社が経営した炭鉱にともなう都市整備などで、現在の市街構造の基礎が形づくられ、最盛期は「炭都多久」とも呼ばれました。

川打家住宅（国重要文化財）

地域の歴史文化の現況

（1）祭り・行事

［主な祭りや行事イベント］

多久聖廟釈菜（県重要無形民俗文化財）

高野神社春祭り　熱田社秋の例祭　砂原二十三夜祭　多久山笠

岸川盆綱引き　七郎神社祇園祭　両子神社秋季大祭　もぐら打ち

孔子祭り　多久まつり　論語カルタ大会　孔子の里紅葉まつり

［主な郷土芸能］

ヤーホーハイ　太鼓浮立　鉦浮立　面浮立　銭太鼓

面浮立

（2）神社・社

神社の代表に、天徳元年（957）に秋田宮内大輔豊定が創建した熊野権現社と、長徳元年（995）に豊定の子豊次が創建した両子山王権現を合祀した両子神社（東多久町納所）があります。両子神社の肥前鳥居は市重要文化財です。高野神社（南多久町西ノ谷）と多久八幡神社（多久町東の原）は、多久に下向した多久宗直が創建し、八幡神社の若宮八幡宮神殿は県重要文化財、境内の三本杉は市天然記念物となっています。

若宮八幡宮神殿（県重要文化財）

（3）寺院・堂

寺院の代表に、天平 4 年（732）に行基により開山されたと伝えられる桐野山妙覚寺（南多久町桐野）があります。大同 2 年（807）行基の創建と伝える光明山専称寺（多久町東の原）は、はじめ南多久にあり、多久宗直が現在の地に再興しました。専称寺墓地には、少弐政資、資元父子の墓（市重要文化財）があり、伝説核割れ梅の樹があります。他に木造阿弥陀如来坐像（市重要文化財）、専称寺の大つつじが寺内にあります。

専称寺の大つつじ（市天然記念物）

肥前狛犬

（4）石造物

市内には人々の信仰を集める神仏像や石祠、祈念の碑や塔などが数多く存在し、その数は社寺とくらべて最も多く、今回確認できたもので約 1,300 体、正確には3,000体にも達するといわれます。過去、多久の領内だった砥川地区（現小城市）は佐賀県内の石工の本場であり、砥川石工といわれる職工集団の関わりが想像されます。肥前鳥居や肥前狛犬など、素朴ながら独特な特徴をもつ石造物群が残されています。

（5）伝説

市内の旧唐津往還、伊万里往還の沿道地域を中心に、多くの言い伝え・伝説が残っています。伝説は人から人へ、道を通じて地域に広がることもあり、伝説の分布は自然にそれを表すのかも知れません。

古くは「松浦佐用姫と長者原」、「百合稚伝説と鬼神社」などがあり、江戸時代には多久家と関わる「金ケ江三兵衛伝説」、「多久聖廟と龍」、「林姫哀話」が知られます。

（6）炭鉱関連

江戸時代から石炭採掘の記録があり、明治になるとともに小規模炭鉱経営、大正期には大手資本による三菱古賀山炭鉱、明治鉱業多久炭鉱などの大規模な炭鉱経営が行なわれました。戦後も佐賀県で最多の出炭量を誇っていましたが、社会の石油エネルギーへの転換が契機となり、昭和 47 年に市内最後の炭鉱が閉山しました。市内に残る炭鉱関連の遺構は、炭鉱町の面影を伝えています。

竪坑櫓跡